SYMPHONY

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, *Music Director*

80th ANNIVERSARY

NO.154
SUN. 1ST NOVEMBER
TOKYO OPERA CITY SERIES

NO.747
SAT. 28TH NOVEMBER
SUBSCRIPTION CONCERT

2026
NOVEMBER
11

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, Music Director

80th ANNIVERSARY

東京交響楽団

音楽監督 ロレンツォ・ヴィオッティ
桂冠指揮者 ユベール・スダーン
名誉客演指揮者 大友直人
永久名誉音楽監督 秋山和慶◆
永久名誉指揮者 アルヴィド・ヤンソンス◆
上田　仁◆
遠山信二◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター 小川ニキティングレブ
景山昌太郎
小林壱成

コンサートマスター 吉江美桜
田尻　順

会　長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤　創
	依田　巽
専務理事	廣岡克隆
理　事	阿部武彦　竹中平蔵
	池辺晋一郎　永山　治
	伊藤美樹　夏野　剛
	大橋　博　増岡聡一郎
	コシノジュンコ　森　京子
	菅谷貴子　若本博隆
監　事	寺西基之
	渡邊芳樹
評議員長	梅沢一彦
評議員	穴水　孝　星　久人
	鴛海量明　森川　智
	片山泰輔　芳野まい
	加藤英輔
特別顧問	飯島延浩　福田紀彦
	窪田雅己
永久名誉顧問	金山茂人◆

1st Violins
○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins
◎清水泰明
◎服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
河裾あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
吉田みのり
阿部真弓
坂井みどり

Violas
◎青木篤子
◎武生直子
◎西村眞紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos
☆伊藤文嗣
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行●
樋口泰世
福﨑茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses
◘助川　龍
◎コーディ・ローズブーム
○北村一平
○久松ちず
内岡沙月
安田修平
渡邉淳子

Flutes
◎竹山　愛
◎知久　翔

Flute & Piccolo
濱﨑麻里子

Oboes
◎荒　絵理子
◎荒木良太▲
浦脇健太

Clarinets
◎エマニュエル・ヌヴー
◎吉野亜希菜
近藤千花子
務川広貴

Bassoons
◎福士マリ子
◎福井　蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns
◎上間善之
白井有琳
津守隆宏
藤田麻理絵

Trumpets
◎澤田真人
◎ローリー ディラン
野沢岳史●
松山　萌
早野舞花＊

Trombones
◎大馬直人
◎鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone
藤井良太

Tuba
近藤陽一

Timpani& Percussions
◎清水　太
◎山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp
渡辺沙羅

Librarians
林　知也
カーン日和＊

Stage Managers
西岡理佐
山本　聡

栄誉団員
井伊　準◆

楽団長
廣岡克隆

編成局シニアディレクター
藤原　真

編成局
パーソネルマネージャー
謝名元　民

楽団委員
小西応興(議長)
福留史紘(書記)
北村一平
清水　太
清水泰明
綱川淳美

事務室長
荒井宣之

事務局
□髙瀬　緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎　日向
小川博司
桐原美砂
後藤絢音
長久保宏太朗
三橋真琴
山田道子
山本未央子
✪梶川純子
澤戸雅美＊

名誉団友
深江泰輔◆
三木晴雄◆

団　友
天野佳和
安藤史子
池田　肇
石川晴依世
今村和弘
岩澤淳子
上原規照
上原末莉
内田彬雄
内田乃俐子
宇都　実
梅田　学
大隅雅人
大塚正昭
大埜展男
大和田浩明
大和田ルース
荻野　昇
奥田昌史
音川健二
加護谷直美
笠原勝二
甲藤さち
加藤幸子
加藤信吾
金澤　茂
久保田一穂
熊谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
塩谷しずか
篠崎　隆
菅野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曽根敦子
髙野成之
武田英昭
田中貴輔
千村雅信
十亀正司
豊山　悟
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山　智
新澤義美
西依智子
西脇秀治
野村真澄
馬場隆弘
原田美保子
日野　奏
ペアンテ・ポーマン
前田健一郎
松﨑里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本　睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺　功
渡辺哲郎
渡辺裕子

☆ソロ首席奏者 ◘客演首席奏者 ◎首席奏者 ○フォアシュピーラー ●インスペクター □部長 ✪シニアディレクター ＊研究員・準事務局員 ▲留学中
◆故人【ハープ寄贈：環境ステーション株式会社】

演奏会でのお願い
Concert Manner Guide



チケットに記載された座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の電源はOFFに

マナーモードにしていても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食はご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際はハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから
拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。
※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

PROGRAM

11/1
SUN

東京オペラシティシリーズ 第154回
2026年11月1日(日) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.154
Sun. 1st November 2026, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

大井剛史[指揮]
小林壱成[コンサートマスター]

OOI Takeshi, Conductor
KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ドヴォルザーク:序曲「我が家」op.62(10')

DVOŘÁK : My Homeland Overture op.62 (10')

スメタナ:連作交響詩「我が祖国」(80')
Ⅰ. ヴィシェフラト
Ⅱ. ヴルタヴァ
Ⅲ. シャールカ

休憩(20')

Ⅳ. ボヘミアの森と草原から
Ⅴ. ターボル
Ⅵ. ブラニーク

SMETANA : Má Vlast (80')
Ⅰ. Vyšehrad
Ⅱ. Vltava
Ⅲ. Šárka

Intermission (20')

Ⅳ. Z českých luhů a hájů
Ⅴ. Tábor
Ⅵ. Blaník

●主催／公益財団法人 東京交響楽団
●助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.4をご覧ください

アンケート
ご協力のお願い

PROFILE



©Ayane Shindo

OOI Takeshi

Conductor

大井剛史[指揮]

東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者。東京藝術大学指揮科卒業、同大学院修了。1996年安宅賞受賞、2008年アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクール第2位。東京二期会、新国立劇場などで副指揮者を務め、2002年ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」でデビュー。仙台フィル副指揮者(2000~2001)、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009~2016)、山形交響楽団指揮者(2009~2013)・正指揮者(2013~2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者(2014~2024)を歴任。全国の主要オーケストラを指揮し、管弦楽・吹奏楽を中心に、現代音楽、オペラ、バレエ、ミュージカル、ポップスなど幅広い分野で活躍。トーク付き公演や子どものためのコンサートにも力を注ぐ。東京藝術大学音楽学部器楽科(吹奏楽)、尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

Takashi Ooi is Principal Conductor of the Tokyo Kosei Wind Orchestra. He graduated from Tokyo University of the Arts and completed its graduate conducting program. He received the Ataka Prize in 1996 and won second prize at the Antonio Pedrotti International Conducting Competition in 2008. He has served as Assistant Conductor of the Sendai Philharmonic Orchestra, Principal Conductor of the New Philharmonic Orchestra Chiba, Conductor and Resident Conductor of the Yamagata Symphony Orchestra, and Resident Conductor of the Tokyo Kosei Wind Orchestra. He conducts major orchestras throughout Japan, with a wide-ranging repertoire encompassing classical orchestral and wind band works, premieres of contemporary music, opera, ballet, musicals, and pops. He is passionate about making music accessible through concerts with spoken commentary and performances for children. Ooi is a Visiting Professor in the Department of Instrumental Music (Wind Orchestra), Tokyo University of the Arts, and at SHOBI College of Music.

11/1
SUN

アントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)

序曲「我が家」op.62

本公演で取り上げられるアントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)の序曲『我が家』op. 62は、演奏会用序曲ではなく演劇の付随音楽の序曲として作曲された。劇作家で俳優でもあったフランチシェク・フェルヂナント・シャンベルク(1838-1904)が、自身の戯曲『ヨゼフ・カイエターン・ティル』を1881年にプラハの国民劇場で上演する際の付随音楽の作曲をドヴォルザークに委嘱したことが、この序曲を書くきっかけとなった。シャンベルクの戯曲は、19世紀前半のチェコ人の間で勃興し、チェコ人の民族意識を主に学芸と言語の面から涵養するきっかけとなった「民族復興運動」に参加していた劇作家、俳優、ジャーナリスト、舞台監督であったヨゼフ・カイエターン・ティル(1808-1856)の生涯を描いたものである。

ドヴォルザークがこの序曲を書く際には、ゆっくりとした序奏を経た後にソナタ形式による速いテンポの主部を経て、盛大なコーダで全曲を締めくくるという、ベートーヴェンの序曲を彷彿とさせる古典的な書法に則った。だが、ティルがものした戯曲の中でも当時の市民によく知られていた2つの戯曲の劇中歌を重要な主題として用いることで、独特な性格が付与された。序奏と主部の第一主題にはティルの戯曲『春の祭り』(1834)での劇中歌「我が家はいづこ」という歌の旋律が(この歌は、現在のチェコ共和国の国歌でもある)、第二主題には同じくティルの戯曲『ストラコニツェのバグパイプ吹き』(1847)で劇中歌として用いられたボヘミア民謡「私たちのあの庭で」の旋律がそれぞれ用いられ、コーダでは「我が家はいづこ」が強奏されて全曲を華々しく締めくくる。

シャンベルクの戯曲であれ「我が家はいづこ」であれ、1880年代の視点から「民族復興運動」期を単に懐しむためのものではなかったことにここで注意を向けられたい。1880年代のプラハでは、チェコ人がボヘミアとモラヴィアでの自治権を求める運動が激化し、同地在住のドイツ語を第一言語とする「ドイツ人」との民族対立が表面化していたからだ。各地のデモ行進に参加したチェコ人市民が熱狂的に歌っていたのは、他ならぬ「我が家はいづこ」だった。言わば、こうした状況下で書かれたドヴォルザークの序曲は、「民族復興運動」期に活躍した劇作家の生涯を活写するとともに、政治的自立を目指す同胞の熱狂ぶりを思い起こさせるものでもあったと言えよう。

中村 真 Text by NAKAMURA Makoto

作曲:1881年

初演:1833年　プラハ

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、弦5部

ベドジフ·スメタナ(1824~1884)

連作交響詩「我が祖国」

ベドジフ·スメタナ(1824~1884)が連作交響詩『我が祖国』を作曲していた社会的な脈絡と音楽史的な脈絡は、いかなるものなのか。以下ではこの問題について素描しよう。

初期のチェコ人の民族運動の目的は、チェコ語を文語として復興させることであり、主な担い手は学者や文人だった。17世紀にハプスブルク家に支配されてからチェコ語はボヘミアとモラヴィア(順に、現在のチェコ共和国の西半分と東半分に相当)において公的な地位と文語としての権威を失った(誤解されがちだが、ハプスブルク家の支配下にあってもチェコ語の使用が禁止されていた訳ではない)。チェコ語に関する研究や、古典文学や同時代のヨーロッパの文学作品のチェコ語への翻訳とチェコ語での文芸作品の実作が盛んに行われた。初期の民族運動は、言語と文化に関する側面に重点を置いていた。

だが、イギリスからヨーロッパの大陸に波及した産業革命と1848年にウィーンで起きた「三月革命」とによって、チェコ人の民族運動は変化する。前者によって産業化が進行して、チェコ人の経済力が高まった。後者をきっかけに、チェコ語を第一言語とするチェコ人としての民族意識を涵養したり、チェコ語にドイツ語と同等の公的地位を求めたりする運動も盛んになった。1867年にオーストリア=ハンガリー二重帝国が成立すると、この動きはさらに強まり、ドイツ語を第一言語とする「ドイツ人」との民族対立が起き始めた。

チェコ人の民族運動が政治的な性格を帯びるとともに、文化の領域でもチェコ人の民族意識を涵養する動きが盛んになる。中でも、宗教改革にも影響を与えたヤン·フス(1370頃~1415)と彼の理念を支持したフス派の活動を民族の苦難と栄光を体現するものとして描いた著作や芸術作品が相次いで発表された。19世紀後半以降のチェコ人の民族運動は、言語と文化に軸を置きつつも、政治的な性格も帯びていった。スメタナが連作交響詩『我が祖国』を作曲していた社会的な脈絡とは、こうしたものだった。

スメタナは、「連作交響詩」という構想を作曲の当初から固めていたわけではない。むしろ、作曲を進めつつ具体化させていったと言える。オペラ『リブシェ』を脱稿した1872年にチェコ人の民族精神を称揚する管弦楽曲の構想を抱き始めたが、その構想はまだ漠然としていた。翌1873年に連作交響詩として構想し始め、「ヴィシェフラト」と「ヴルタヴァ」を1874年に完成させたのちに、1875年に「シャールカ」と「ボヘミアの森と草原から」を作曲した。この頃の構想では、この4曲で連作を完結させる予定だった。だが、1878年の11月から12月にかけて「ターボル」を、1879年の3月に「ブラニーク」を連作の掉尾を飾る曲として完成させた。これに

11/1
SUN

よって、今日知られている全6曲の連作交響詩が完結した。

『我が祖国』で扱われている標題的内容は、スメタナ自身による楽曲解説と楽曲で主題として用いられている楽句の扱われ方から、(1)太古のチェコ人の栄光に満ちた伝説を描いた曲、(2)ボヘミアの自然美とそこに暮らすチェコ人の生活を描いた曲、(3)フス派戦争に関する史実とそこから生じた救国伝説を描いた曲の3つに大別できる。

(1)第1曲「ヴィシェフラト」では、プラハ市内のヴルタヴァ川沿いにあるヴィシェフラトの城跡を詩人が眺めているうちに、かつての城塞に竪琴の音が鳴り響き、騎士たちがそこで戦った様子へ思いを馳せる様子が描かれる。第3曲「シャールカ」では、男たちに虐げられた末に城を構え、軍備を整えた女たちが逆襲する様子が描かれる。

(2)第2曲「ヴルタヴァ」では、ヴルタヴァ川が水源からボヘミア各地を経てヴィシェフラトの横を流れた末にエルベ川に向けて去り行くさまを描くために、第1曲での主題を末尾で回帰させる。第4曲「ボヘミアの森と草原から」でも、水の動きを思わせる音型やポルカのリズム音型や民謡を想起させる旋律が、主題として活用される。

(3)第5曲「ターボル」は、フス派の重要な拠点だった南ボヘミアの町ターボルでの戦いを描く。第6曲「ブラニーク」は、戦いに敗れたフス派の英雄たちが鎮圧された後に身を隠して眠っているブラニークの伝説を描いたのちに、彼らの精神に導かれてチェコ人が将来再生するさまを謳い上げる。いずれの曲でも、フス派のコラール「汝ら神の戦士」の旋律を分割したものが主題として用いられる。さらに「ブラニーク」では、第1曲「ヴィシェフラト」の主題が末尾で高らかに鳴り響き、連作交響詩の全体を締めくくる。

『我が祖国』では、ある交響詩の主題を別の交響詩でも活用することで、題材のみならず音楽的側面からもそれぞれの交響詩が関連付けられている。リストが案出した交響詩の理念を有機的な統一性を持った連作としてこのように発展させたという点において、スメタナの『我が祖国』は交響詩、ひいては標題音楽の歴史においても重要な位置を占めるものである。

中村 真 Text by NAKAMURA Makoto

作曲:1874~1879年

初演:第1曲「ヴィシェフラト」:1875年3月14日
第2曲「ヴルタヴァ」:1875年4月4日
第3曲「シャールカ」:1877年3月17日、第4曲「ボヘミアの森と草原から」:1876年12月10日
第5曲「ターボル」、第6曲「ブラニーク」:1880年1月4日

全曲初演:1882年11月5日

編成:ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、トライアングル、バスドラム、シンバル、ハープ2、弦5部

PROGRAM

11/28
SAT

第747回 定期演奏会《ユベール・スダーン80歳記念》
2026年11月28日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.747《Celebrating Hubert SOUDANT 80th Birthday》
Sat. 28th November 2026, 18:00 Suntory Hall

ユベール・スダーン[指揮]	Hubert SOUDANT, Conductor
森麻季[ソプラノ]	MORI Maki, Soprano
金子美香[アルト]	KANEKO Mika, Alto
福井敬[テノール]	FUKUI Kei, Tenor
与那城敬[バス]	YONASHIRO Kei, Bass
東響コーラス[合唱]	Tokyo Symphony Chorus, Chorus
根本卓也[合唱指揮]	NEMOTO Takuya, Chorusmaster
小川ニキティングレブ[コンサートマスター]	OGAWA Nikitingleb, Concertmaster

ブルックナー:テ・デウム ハ長調 WAB45(24')

Ⅰ. 神よ、私たちはあなたをたたえ
Ⅱ. 僕たちをお助け下さい
Ⅲ. 永遠に数えられるよう
Ⅳ. 主よ、あなたの民を救い
Ⅴ. 主よ、あなたが私の拠りどころです

BRUCKNER : Te Deum in C major WAB45 (24')

Ⅰ. Te Deum
Ⅱ. Te ergo
Ⅲ. Aeterna fac
Ⅳ. Salvum fac
Ⅴ. In te, Domine, speravi

休憩(20')

Intermission (20')

モーツァルト:レクイエム ニ短調 K.626(57')

Ⅰ. イントロイトゥス(入祭唱)
Ⅱ. キリエ(憐みたまえ)
Ⅲ. セクエンツィア(続唱)
Ⅳ. オフェルトリウム(奉納唱)
Ⅴ. サンクトゥス(聖なるかな)
Ⅵ. ベネディクトゥス(祝せられたまえ)
Ⅶ. アニュス・デイ(神の子羊)
Ⅷ. コンムニオ(聖体拝領唱)

MOZART : Requiem in D minor K.626 (57')

Ⅰ. Introitus
Ⅱ. Kyrie
Ⅲ. Sequentia
Ⅳ. Offertorium
Ⅴ. Sanctus
Ⅵ. Benedictus
Ⅶ. Agnus Dei
Ⅷ. Communio

●主催／公益財団法人 東京交響楽団
●助成／文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.12をご覧ください

文化庁

アンケート
ご協力のお願い

Hubert SOUDANT

ユベール・スダーン

[指揮]Conductor
桂冠指揮者 Conductor Laureate

音楽を愛する皆さまへ

1997年、私は初めて東京交響楽団の
指揮台に立ちました。
それ以来、客演指揮者、首席客演指揮者、
音楽監督、そして現在は桂冠指揮者として、
東京交響楽団とともに歩んできました。
この年月は、間違いなく、私の音楽人生で最も幸せな時間です。
東京交響楽団、そして日本という国に、心から感謝しています。
皆さんのおかげで、私は自分の音楽を、
これ以上ないほど素晴らしい形で表現することができました。
これからも、何度でも皆さまとお会いしたい。
心の底から、ありがとう。

ユベール・スダーン

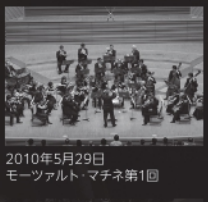
2012年7月21日
サントリーホール 第602回定期演奏会



2004年9月23日 ミューザ川崎シンフォニーホール 川崎プレ定期演奏会第1回



2008年 シューベルトチクルス



2010年5月29日
モーツァルト・マチネ第1回



2014年3月30日 ミューザ川崎シンフォニーホール 川崎定期演奏会
第44回



2026年1月10日 サントリーホール
ニューイヤーコンサート2026

東京交響楽団桂冠指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢の名誉アーティスティック・アドヴァイザーを務めるユベール・スダーンは、1946年、オランダ・マーストリヒト生まれ。ブザンソン国際指揮者コンクール最高位、カラヤン国際指揮者コンクール第2位などに輝き、フランス国立放送フィル、ザルツブルク・モーツァルテウム管の首席指揮者、東京交響楽団音楽監督等を歴任。ベルリン・フィル、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、ドレスデン・シュターツカペレ、ミラノ・スカラ座管、ローマ・サンタ・チェチーリア管など主要なオーケストラと共演し、オペラの分野でもパリ、パルマ、パレルモ、ボローニャなどのオペラハウスで精力的に活動を展開。2004年7月、ザルツブルク市名誉市民およびオーストリア・ザルツブルク州ゴールデン勲章を授与された。

近年は、大阪フィル、兵庫芸術文化センター管、札響、愛知室内をはじめとする日本各地のオーケストラから招かれている。2027年4月より愛知室内オーケストラのアーティスティック・ディレクターに就任する。

Born in the Netherlands, Hubert Soudant launched his international career after winning the highest award at the Besançon International Conducting Competition, second prize at the Karajan International Conducting Competition, and first prize at the Guido Cantelli International Competition. He has since been invited to conduct leading orchestras such as the Berlin Philharmonic, London Symphony, Vienna Symphony, Munich Philharmonic, La Scala Philharmonic in Milan, Teatro dell'Opera di Roma, and Teatro La Fenice in Venice. Following his tenure as Music Director of the Orchestre Philharmonique de Radio France, he served for 13 years as Music Director of the Mozarteum Orchestra of Salzburg. In July 2004, he was awarded honorary citizenship of the City of Salzburg and the Golden Decoration of the State of Salzburg, Austria. From September 2004, he served as Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra for ten years and currently holds the title of Conductor Laureate. Since September 2022, he has been Honorary Artistic Adviser of the Orchestra Ensemble Kanazawa.He will become Artistic Director of the Aichi Chamber Orchestra in April 2027.

ユベール・スダーンと東京交響楽団の軌跡

1997	11月8日初共演
1999	10月首席客演指揮者に就任
2004	9月音楽監督に就任/ 7月ミューザ川崎シンフォニーホール開館
2005	プッチーニ/ペリオ版:オペラ「トゥーランドット」が、『音楽の友』誌による"マイ・ベストコンサート2005"にて、ベルリン・フィルと並び第6位に入る ベートーヴェン:交響曲 第9番「合唱付き」CDをリリース
2006	モーツァルト:歌劇「皇帝ティトの慈悲」(二期会主催)が話題となる 「ブルックナー:交響曲 第8番」「モーツァルト:交響曲 第29&39番他」CDリリース
2007	定期演奏会のテーマ作曲家「ハイドン」
2008	定期演奏会のテーマ作曲家「シューベルト」 「シューベルト:交響曲シリーズ」CD(1,000円)が話題となる 「第21回ミュージック・ペンクラブ音楽賞/コンサート・パフォーマンス部門」受賞 「シューベルト・チクルス」が『音楽の友』誌"ベストコンサート2008"日本のオーケストラの最高位となる 『レコード芸術』誌による"オーケストラ・ランキング2008"にて日本のオーケストラの最高位となる
2009	定期演奏会のテーマ「シューマン&ブラームス」 「ブルックナー:交響曲 第7番」CDリリース、 「第22回ミュージック・ペンクラブ音楽賞/クラシック部門録音・録画賞」&「オーディオ部門録音・録画賞」を受賞 『音楽の友』誌"ベストコンサート2009"にて日本のオーケストラの最高位となる
2010	定期演奏会のテーマ「Afterシューマン(ロマン派の作曲家たち)」 スダーンの提唱による「モーツァルト・マチネ」シリーズが始まる 「シューマン:交響曲全集(マーラー版)」CDリリース 7月日本のオーケストラ初の中国・大連公演
2011	定期演奏会のテーマ「シェーンベルク」、「ブルックナー:交響曲 第8番」CDリリース 『音楽の友』誌"あなたが好きな日本のオーケストラは?"にて3位に躍進する
2012	定期演奏会のテーマ「マーラーの歌曲」
2013	音楽監督としての最後のシーズン「Grand Finale」
2014	桂冠指揮者に就任
2022	「名曲全集 第173回」をはじめ、コロナ禍において日本各地で代役を務める
2026	永久名誉音楽監督秋山和慶に代わってニューイヤーコンサートを指揮
11月	東京交響楽団80周年ユベール・スダーン80歳記念演奏会
	計162公演

PROFILE

11/28
SAT

MORI Maki, Soprano
森 麻季[ソプラノ]


©Yuji Hori

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所修了後、ミラノとミュンヘンに留学。P.ドミンゴ世界オペラコンクールをはじめ、多数の国際コンクールに上位入賞。国内外の著名指揮者および主要オーケストラとの共演に加え、ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》、BBCプロムス、山田和樹指揮バーミンガム市交響楽団による歌劇《蝶々夫人》のタイトルロールは現地の聴衆の喝采を浴びた。ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。国立音楽大学客員教授、東京音楽大学特任教授、東京藝術大学でも教鞭をとる。

KANEKO Mika, Alto
金子美香[アルト]



東京音楽大学声楽演奏家コース首席卒業。同大学院、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院、二期会オペラ研修所修了。二期会『ワルキューレ』『魔笛』、新国立劇場『ジュリオ・チェーザレ』『カルメン』等に出演。ジョナサン・ノット指揮東京交響楽団とは『エレクトラ』『子どもと魔法』『第九』で共演。2018年バイロイト音楽祭『ワルキューレ』、25年準・メルクル指揮台湾フィル『さまよえるオランダ人』に出演。東京・春・音楽祭ではヤノフスキ指揮《指環》《パルジファル》に参加。歌曲やコンサートでも活躍。二期会会員

FUKUI Kei, Tenor
福井 敬[テノール]



国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所を経てイタリアで研鑽を積む。1992年二期会『ラ・ボエーム』ロドルフォでデビュー。『ローエングリン』『オテロ』『トゥーランドット』『パルジファル』『トリスタンとイゾルデ』等の主役を務める。2026年はびわ湖ホール『道化師』カニオ、『トゥーランドット』カラフに出演。ズービン・メータ指揮ウィーン・フィル「第九」等、コンサートでも活躍。芸術選奨文部科学大臣賞、出光音楽賞等受賞。国立音楽大学教授。二期会会員

YONASHIRO Kei, Bass
与那城 敬[バス]



桐朋学園大学卒業、同大学研究科、二期会および新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁在外研修員としてイタリアで研鑽を積む。マリオ・デル・モナコ国際声楽コンクール第3位。二期会『エフゲニー・オネーギン』タイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵、新国立劇場『愛の妙薬』『ばらの騎士』等に出演。近年は二期会『カルメン』『道化師』、BCJ『禅』等に出演。コンサートでもハイドン「天地創造」、マーラー「大地の歌」等、バロックから現代作品まで幅広く活躍。二期会会員

NEMOTO Takuya, Chorusmaster
根本卓也 [合唱指揮]



東京藝術大学大学院修士課程(指揮)及び、国立リヨン高等音楽院(通奏低音)修了。

英独仏伊はもちろんのこと、ロシア語・チェコ語・ラテン語・ヘブライ語に至るまで、歌詞を原文で解する類稀な才能により、新国立劇場を始め、東京二期会・OMF・ニッセイオペラ等、国内主要団体で音楽スタッフとして、合唱指揮・ディクションコーチ・作品レクチャー講師ほか多岐にわたり活躍。チェンバロ奏者・作曲家としての顔も持つ。
HP:https://nemototakuya.info/

Tokyo Symphony Chorus, Chorus
東響コーラス [合唱]

1987年9月、東京交響楽団専属のアマチュア混声合唱団として創立。「東京交響楽団と一体の演奏をし、より質の高い合唱付きオーケストラ曲のコンサートを提供する」ことを目的としている。指導には、演奏する楽曲の背景や歌詞に使用されている言語に精通した合唱指導者、発声指導者、伴奏ピアニスト、言語指導者を招き、公演ごとに出演者を決定するオーディションを行うことで常に演奏の質を高めている。歴代音楽監督の故秋山和慶、ユベール・スダーン、ジョナサン・ノットからの信頼も厚い。古典から現代音楽、また日本初演など幅広いレパートリーに対応している。他団体からの出演依頼も多く、近年では「ラ・フォル・ジュルネ」に出演、「長野の県民文化会館とウィーン楽友協会の提携40周年演奏会」に賛助出演し好評を得た。2020年にはアマチュア合唱団として初めて「ミュージック・ペンクラブ音楽賞 室内楽・合唱部門」を受賞。

メンバー表

●合唱指揮:根本卓也
稽古ピアニスト:古瀬安子、朴　令鈴
発声指導:大沼　徹、澤原行正、武内朋子
辻　裕久、鳥木弥生、中山美紀

●委員長　岡　邦子(Sop.)
●副委員長　鳥居順子(Sop.)
堀　浩史(Bas.)

●パートリーダー
Sop.(正)佐藤由紀子　(副)遠藤由理
Alt.(正)水越睦美　(副)小林朋子
Ten.(正)奥貫壮史　(副)内山誠彦、枇杷高志
Bas.(正)水野　敬　(副)池上陽一郎

●コーラス委員
Sop. 石村友希子、内野英子、森田恵子
Alt. 岡本いつか、辻　朱美、和田真理
Ten. 大崎　純、菅野広和、木村　健
Bas. 荒川雅人、小沼敬四郎、渡辺理公男

Soprano
相田奈寿紀
石井眞穂
石村友希子
岩元邦子
内野英子
遠藤由理
岡　邦子
小笠原美貴
奥泉亮子
川崎仁美
佐藤由紀子
島崎尚美
下川原淑子
鈴木育代
鈴木美和
武田美香
都築靖子
鳥居順子
東原なお
平川暢子
藤記富子
増渕由佳
武藤弘美
森田恵子
森本由希
山下由美子
山津裕美
山之内文子

Alto
甘利久美子
安藤有子
石渡範子
伊藤晴子
上原ハルミ
江藤祐子
岡本いつか
奥山由里
尾島夕里
尾田雅代
加藤由美子
木内道子
後藤幸子
小林朋子
小張さゆり
齋藤由紀
坂本タカ子
佐々木美登
佐藤理恵
関口あずみ
髙田恵子
髙橋ユリコ
竹内あゆみ
田中美樹
辻　朱美
筒井敬子
中島奏子
日野由美子
福島里美
藤﨑幸子
藤嶋智子
藤田　栄
藤盛美恵
堀西香織
水越睦美
山下裕美
山邉伸子
鎗水みお
吉井久美子
吉岡美佳子
吉野辺園恵
吉村美恵子
和田真理
渡邊朋子
渡邉史恵

Tenor
有馬　猛
内山誠彦
大崎　純
小川英樹
奥貫壮史
菅野広和
木村　健
谷川　啓
谷川俊一郎
中込敏仁
中原裕幸
名塩　優
西　宏隆
服部俊治
枇杷高志
増渕　隆
水谷晴彦
和田　敏

Bass
荒川雅人
荒木康司
池上陽一郎
井之上隆太
今井俊博
大足史郎
小笠原　聡
岡野一哉
河村太郎
菊池　靖
北浦康勢
木内正則
倉沢正樹
黒澤　謙
河野　愛
小沼敬四郎
篠田一朗
杉山慎二
竹内誠治
土井　丈
仲　恭令
萩野　慎
早川克己
平川尚義
堀　浩史
松木　望
水野　敬
宮坂知明
守谷隆一
矢野　通
山口　卓
山崎弘光
山之内達也
横尾　優
米田　光
渡辺理公男

11/28
SAT

アントン・ブルックナー (1824~1896)

テ・デウム ハ長調 WAB 45

19世紀のオーストリアを生きたブルックナーの名は、現在では特にその交響曲によって知られている。一方で、彼は当時高く評価された教会音楽の作曲家でもあった。その教会音楽の多くは、教会関係者の依頼に応じたもの。しかし、1881年に最初のスケッチがとられた《テ・デウム》は、依頼主が明らかではない。ブルックナーは「神への感謝」のために作曲したと後に語ったが、勝利や神への感謝と讃美を示す「テ・デウム」というジャンルをふまえるなら、本来は誰かしらの祝事に関連して作曲した可能性もある。

ブルックナーは少年時代をリンツ近郊にある聖フローリアン修道院で過ごした。その生活の中でモーツァルトやミヒャエル・ハイドンの《テ・デウム》に触れている。いずれもハ長調を基調としており、ブルックナーもまた「喜びや三位一体を示す調」と考えていたハ長調で自身の《テ・デウム》を作曲した。

全体は大きく5つの部分に分けられる。第1部〈神よ、私たちはあなたをたたえ〉冒頭、完全音程を枠組みにした作品全体の中心となる音型を弦楽器群が提示する。合唱に添えられたトランペット、トロンボーン、ティンパニの響きは、伝統的な様式を感じさせる。第2部〈僕(しもべ)たちをお助け下さい〉は、ヴィオラに導かれる独唱群と独奏ヴァイオリンが祈りを歌いあげる。二短調ではじまる第3部〈永遠に数えられるよう〉には、希望を示す3音上行音型も。第4部〈主よ、あなたの民を救い〉で第2部と第1部を回想し、アーチ構造が浮かび上がると、第5部〈主よ、あなたが私の拠りどころです〉で堂々たるフーガが造られる。そこには、和音が少しずつ上行する印象的な和音の連鎖がある。《テ・デウム》と同時期に作曲された交響曲第7番でも使われているこの連鎖は、ブルックナー最愛の音楽作品のひとつである、モーツァルトの《レクイエム》の〈ラクリモーサ〉に由来していると指摘されることも。積み重なる響きの先で第1部の音楽が輝かしく変容し、円環がかたち造られる。

《テ・デウム》は初演から高く評価され、ブルックナーの生前にもコンサートホールで繰り返し演奏される彼の代表作となった。本作の初版楽譜の表紙にはこう記されている―― O.A.M.D.G. すべては神の大いなる栄光のために。

石原勇太郎 Text by ISHIHARA Yutaro

作曲:1881年5月、1883年9月~1884年3月

初演:2台ピアノ伴奏版:1885年5月2日　ウィーン楽友協会小ホール(指揮:ブルックナー)
オーケストラ版:1886年1月10日　ウィーン楽友協会大ホール(指揮:ハンス・リヒター)

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、オルガン、弦5部、独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、合唱

ウォルフガング·アマデウス·モーツァルト（1756～1791）

レクイエム ニ短調 K.626

未完の傑作レクイエムの前に、1791年の夏の終わり、35歳のモーツァルトはオペラ「皇帝ティトの慈悲」初演のため、プラハに赴く。この旅には、妻コンスタンツェのほか、同オペラのレチタティーヴォ·セッコ＝話し言葉を模した叙唱の部分を書いた弟子のフランツ·クサヴァー·ジュスマイヤー（1766～1803）、それにクラリネットの低音域を拡大した「バセット·クラリネット」とバセットホルンの名手アントン·シュタードラーが同行していた。

レクイエムの物語は、そのプラハでの大仕事の少し前に始まる。ウィーン近郊の小古都シュトゥパパの城主ヴァルゼック伯爵の代理人が、モーツァルトにレクイエムを委嘱。しかし曲は未完のまま遺され、ジュスマイヤーの補筆によって「完成」する――この経緯は1800年の初版楽譜出版の際に明らかにされた。

フーガ的な筆致など宗教音楽への関心を高めていた35歳のモーツァルトが書き上げたのは、第1曲「イントロイトゥス」のほぼすべて。それに第2曲「キリエ」、第3曲「セクエンツァ（ラクリモーサの8小節目まで）、第4曲「オッフェルトリウム」の各声楽パートとオーケストラの低音部である。曲の一部は1791年12月中旬にウィーンとプラハの教会で献奏された。

曲の最後に、第1曲の後半部と第2曲の音楽を回帰させたジュスマイヤーの補筆譜は、紆余曲折の末、依頼主ヴァルゼック伯爵や楽譜出版社に送られ、1796年のライプツィヒ·トーマス教会での演奏を経て、レクイエムは伝説化される。チェルニー編曲によるピアノ独奏版が刊行された1827年頃には真贋論争も湧き起こった。1849年にはパリ·マドレーヌ教会でのショパンの葬儀で演奏されたほか、ブルックナー、ブラームスもこの曲を愛した。

今回の演奏は、ドイツの音楽学者で名ヴィオラ奏者、ミュンヘン音大教授でもあったフランツ·バイヤー（1922～2018）が1971年に補筆校訂、その後も改訂されたバイヤー版に基づく。バイヤーは、ジュスマイヤー版の楽曲構成はそのままに、ジュスマイヤーによるオーケストレーション（管弦楽法）をかなり細かく見直している。一言で言えば、和声の重複や不自然な展開を含むジュスマイヤーの加筆を削除し、古典の様式美を際立たせようとした。合唱パートはジュスマイヤー版とほぼ同じだが、教会音楽の在り方に基づき、指揮者によっては別の版（または独自）の美学を反映させることもある。

奥田佳道 Text by OKUDA Yoshimichi

作曲：1791年秋～

初演：1793年1月2日ウィーン

編成：バセット·ホルン2、ファゴット2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、オルガン、弦5部、独唱（ソプラノ、アルト、テノール、バス）、合唱

11/28
SAT

アントン・ブルックナー：テ・デウム ハ長調 WAB 45

Anton Bruckner: “Te Deum” in Cmajor WAB45

歌詞対訳：三ヶ尻 正

1. Te Deum

Te Deum laudamus,	神よ、私たちはあなたをたたえ、
te Dominum confitemur.	主であるあなたを賛美します。
Te aeternum Patrem	永遠の父よ、
omnis terra veneratur.	地上のすべてがあなたをあがめます。
Tibi omnes Angeli,	すべての天使たちも、
tibi coeli et universae potestates,	天も、力あるすべての者たちも、
tibi Cherubim et Seraphim	ケルビムもセラピムも、絶え間なく
incessabili voce proclamant:	声を上げてあなたをほめ歌います：
“Sanctus, Sanctus, Sanctus	「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
Dominus Deus Sabaoth.	主なる神、万軍の主は。 天も地も、
Pleni sunt coeli et terra majestatis gloriae tuae”.	あなたの大いなる栄光に満ちています」と。
Te gloriosus Apostolorum chorus,	栄光に輝く使徒の群れ、
te Prophetarum laudabilis numerus,	ほめたたえるべき預言者たち、
te Martyrum candidatus laudat exercitus.	潔い殉教者たち、皆があなたをたたえます。
Te per orbem terrarum	全地に広がる聖なる教会が
sancta confitetur Ecclesia:	あなたをたたえます。
Patrem immensae majestatis;	大いなる威厳に満ちた父を、
venerandum tuum verum et unicum Filium;	まことの、唯一の子なるあなたと、
Sanctum quoque Paraclitum Spiritum.	慰め主である聖霊とともに賛美します。
Tu Rex gloriae, Christe.	栄光ある王、キリストよ。
Tu Patris sempiternus es Filius.	あなたは父の永遠の御子（みこ）です。
Tu ad liberandum suscepturus hominem,	あなたは世を救うため、
non horruisti Virginis uterum.	おとめの胎もいとわず、人間となられました。
Tu devicto mortis aculeo,	あなたは死のとげに打ち勝ち、
aperuisti credentibus regna coelorum.	信ずる者のために天国を開いて下さいました。
Tu ad dexteram Dei sedes	あなたは神の栄光のうちに
in gloria Patris.	神の右に座しておられます。そして
Judex crederis esse venturus.	裁く者として来られる、と信じられています。

2. Te ergo

Te ergo quaesumus,
tuis famulis subveni,
quos pretioso sanguine redemisti.

それゆえ願わくは、あなたが
その尊い血をもってあがなって下さった
僕(しもべ)たちをお助け下さい。

3. Aeterna fac

Aeterna fac cum Sanctis tuis
in gloria numerari.

そして栄光のうちに、あなたの聖人たちとともに
永遠に数えられるよう取り計らって下さい。

4. Salvum fac

Salvum fac populum tuum, Domine,
et benedic hereditati tuae.
Et rege eos, et extolle illos usque in aeternum.
Per singulos dies benedicimus te.
Et laudamus nomen tuum in saeculum,
et in saeculum saeculi.
Dignare, Domine, die isto
sine peccato nos custodire.
Miserere nostri, Domine,
miserere nostri.
Fiat misericordia tua, Domine, super nos,
quemadmodum speravimus in te.

主よ、あなたの民を救い、
あなたの世継ぎとなる者たちを祝福して下さい。
彼らを治めて、永遠に彼らを高めて下さい。
どの日にもあなたを祝福し、
世々にいたるまで
あなたの御名(みな)をたたえます
主よ、今日私たちを守り、
罪を犯さないようにして下さい。
私たちを憐れんで下さい、主よ、
私たちを憐れんで下さい。
主よ、あなたを拠(よ)りどころとしている
私たちに憐れみを施して下さい。

5. In te, Domine, speravi

In te, Domine, speravi:
non confundar in aeternum.

主よ、あなたが私の拠(よ)りどころです。
どうか私をお見捨てになりませんように。

【許可のないコピー・転載は法律で禁じられています】

11/28
SAT

モーツァルト：レクイエム 二短調 K.626

W.A.Mozart : Requiem in D minor, K.626

歌詞対訳：秋岡 陽

I. Introitus
Requiem aeternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et Tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam:
ad Te omnis caro veniet.
Requiem aeternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.

I. イントロイトゥス（入祭唱） 合唱・ソプラノ独唱
永遠の安息を彼らに与えてください、主よ、
そして絶えざる光が彼らを照らしますように。
あなたに、神よ、シオンでは賛美を捧げます。
そしてあなたに誓いは果たされます、エルサレムの地で。
どうか聞き入れてください、私の祈りを；
あなたのもとへ、すべての肉は行くのです。
永遠の安息を彼らに与えてください、主よ、
そして絶えざる光が彼らを照らしますように。

II. Kyrie
Kyrie, eleison.
Christe, eleison.
Kyrie, eleison.

II. キリエ（憐れみたまえ） 合唱
主よ、あわれんでください。
キリストよ、あわれんでください。
主よ、あわれんでください。

III. Sequentia
1）Dies Irae
Dies irae, dies illa,
Solvet saeclum in favilla:
Teste David cum Sibylla.

Quantus tremor est futurus,
Quando judex est venturus,
cuncta stricte discussurus!

III. セクエンツィア（続唱）
1）怒りの日 合唱
その日こそ、怒りの日。
この世は灰燼に帰し、
その様をダビデとシビラがみとどける。

畏れるがよい、
裁きの主が来て、
すべてを厳しく裁かれる。

2）Tuba Mirum
Tuba mirum spargens sonum
per sepulcra regionum,
coget omnes ante thronum.

Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura,
judicanti responsura.

Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus judicetur.

Judex ergo cum sedebit,
quidquid latet apparebit:
nil inultum remanebit,

Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sit securus.

2）不思議なラッパ 四重唱
不思議なラッパが鳴り響き
全地の墓に鳴り渡るなか、
すべての民は玉座の前に集められる。

死も自然も驚くなか
被造物である人間は蘇り、
裁きに答えるときがくる。

記された書物が前に運ばれると、
そこにはすべてが書かれており、
それによって世界は裁かれる。

こうして、裁きの主がその座に着くとき、
隠れているもので、あらわにならぬものはなく、
罰せられずにすむものは何ひとつない。

そのとき哀れな私は何を言うことができるだろう？
誰に助けを求められるだろう？
正しい人でさえ恐れるその時に。

3）Rex Tremendae
Rex tremendae majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

3）恐るべき威厳の王よ 合唱
王よ、恐るべき威厳の王よ、
救うべき者を救ってくださる恵みの方よ、
どうか私を救ってください。慈悲の泉なる方よ。

4）Recordare
Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuae viae:
ne me perdas illa die.

Quaerens me, sedisti lassus,
redemisti crucem passus:
tantus labor non sit cassus.

Juste judex ultionis,
donum fac remissionis,
ante diem rationis.

Ingemisco, tamquam reus:
culpa rubet vultus meus:
supplicanti parce Deus.

Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti,

Preces meae non sunt dignae:
Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.

Inter oves locum praesta,
et ab haedis me sequestra,
statuens in parte dextra.

5）Confutatis
Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.

Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis:
gere curam mei finis.

6）Lacrimosa
Lacrimosa dies illa,
qua resurget ex favilla
judicandus homo reus:

Huic ergo parce Deus
pie Jesu Domine,
dona eis requiem. Amen.

4)慈しみ深いイエスよ、思い出してください 四重唱
慈しみ深いイエスよ、
私のためにあなたが来たことを思い出し、
その日に、私を滅ぼさないでください。

私を探し、疲れてあなたは座しました。
十字架の受難によって、贖ってくださいました。
それほどの働きを、徒労にしないでください。

正しい裁きの主よ、罰をさだめる方よ、
裁きの日のその前に、
どうか赦しを与えてください。

私は罪人のようにうめきます。
その過ちを思うとき、私の顔は赤らみます。
神よ、哀願する者を慈しんでください。

あなたはマリアを赦し、
盗人に耳を傾け、
私にも希望を与えてくださいました。

私の願いはこの身に相応しくないもの。
しかしあなたは善いものをくださる方。
どうか業火で焼き尽くさないでください。

善い羊たちのほうに私を置き、
滅ぼされる山羊から私を離し、
あなたの右側に私を立たせてください。

5)呪われた者たちが 合唱
呪われ、押し黙らされた者たちが
燃えあがる炎へと引き立てられるとき、
どうか私を祝福された者とともに呼んでください。

私は哀願し、ひれ伏して祈ります。
心は灰のように粉々です。
私の最後の心配を、どうかかえりみてください。

6)涙にくれる、その日 合唱
涙にくれる、その日、
人は塵から蘇り、
裁きを受けるために引き立てられる。

神よ、この者をどうかかえりみてください。
慈しみ深い主、イエスよ、
彼らに安息を与えてください。アーメン。

11/28
SAT

モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

W.A.Mozart : Requiem in D minor, K.626

歌詞対訳：秋岡 陽

IV. Offertorium
1）Domine Jesu Christe
Domine, Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas omnium fidelium defunctorum
de poenis inferni,
et de profundo lacu;
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas Tartarus,
ne cadant in obscurum.
Sed signifer Sanctus Michael
repraesentet eas in lucem sanctam,
quam olim Abrahae promisisti
et semini eius.

2）Hostias et preces tibi
Hostias et preces Tibi,
Domine, laudis offerimus.
Tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus.
Fac eas, Domine, de morte transire
ad vitam,
quam olim Abrahae promisisti
et semini eius.

V. Sanctus
Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra
gloria tua.
Osanna in excelsis.

VI. Benedictus
Benedictus qui venit
in nomine Domini.
Osanna in excelsis.

VII. Agnus Dei
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem sempiternam.

VIII. Communio
Lux aeterna luceat eis, Domine,
cum sanctis Tuis in aeternum,
quia pius es.
Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis,
cum sanctis Tuis in aeternum,
quia pius es.

IV. オフェルトリウム（奉納唱）
1）主イエス・キリストよ 合唱・四重唱
主イエス・キリスト、栄光の王よ、
すべての亡くなった信者たちの魂を
地獄の罰から解き放ち、
深い淵から救ってください。
彼らの魂を獅子の口から解き放ち、
冥府がその魂を呑み込むことなく
その魂が闇に陥ることのないようにしてください。
むしろ聖ミカエルが旗手となって
彼らの魂を聖なる光の中へと導いてください。
主がかつてアブラハムに約束し、
そして彼の子孫にも約束したように。

2）いけにえと祈りとを 合唱
いけにえと祈りとを、
主よ、賛美のうちに、私たちは捧げます。
彼らの魂のために、それを受け入れてください。
今日私たちの記念する、その魂のために。
彼らを、主よ、死から
生へと移してください。
主がかつてアブラハムに約束し、
そして彼の子孫にも約束したように。

V. サンクトゥス（聖なるかな） 合唱
聖なる、聖なる、聖なるかな、
万軍の主である神
天と地は、
主の栄光に満ちあふれる。
いと高きところにホサナ。

VI. ベネディクトゥス（祝せられたまえ） 四重唱・合唱
主の名によって来られる方に
祝福があるように。
いと高きところにホサナ。

VII. アニュス・デイ（神の小羊） 合唱
神の小羊、世の罪を除いてくださる方よ、
どうか彼らに安息を与えてください。
神の小羊、世の罪を除いてくださる方よ、
どうか彼らに安息を与えてください。
神の小羊、世の罪を除いてくださる方よ、
どうか彼らに、永遠の安息を与えてください。

VIII. コンムニオ（聖体拝領唱） ソプラノ独唱・合唱
永遠の光が、主よ、彼らを照らしますように。
あなたの聖徒たちと共に、永遠に。
主は慈しみ深い方でいらっしゃいますので。
永遠の安息を彼らに与えてください、主よ、
そして絶えざる光が彼らを照らしますように。
あなたの聖徒たちと共に、永遠に。
主は慈しみ深い方でいらっしゃいますので。



Symphony Lounge［シンフォニー・ラウンジ］

さらなる高みへ マエストロ・スダーンへの賛辞

文 東条碩夫（音楽評論）

私の敬愛する指揮者、東京交響楽団の元音楽監督、マエストロ・ユベール・スダーンとの最初の出会いは、50年前、1970年代半ばに遡る。当時FM東京に在籍していた私の番組で、彼の指揮する他のオーケストラとの演奏会を放送したのがその最初の機会だった。あの頃は、日本の楽壇も彼になじみがないので、名前の表記も一定せず、ウベール・スーダンとか、そんな呼ばれ方もしていたはずである。

しかし、当時の彼のリハーサルたるや、おそろしく念の入ったものだった。本番直前の会場練習――それはふつう、1回通して演奏し、あとは細部にちょっと注文をつけるとか、その程度で済ませるものなのだが、スダーンはぎりぎりまで演奏の出来に満足せず、オーケストラをさらに絞り上げるのだった。おかげでオーケストラは本番を前にしてへとへとになってしまい……収録していた私たちも、その凄まじいほどの完璧主義に、呆気にとられたほどであった。

それから20年、1990年代半ばに東京交響楽団の客演指揮者として登場した時には、スダーンもすっかり練達の名匠となり、全てにおいてバランスの取れたシェフとなっていた。だが彼のあの完璧主義は相変わらずで、しかもいよいよ磨きがかかって来ていたようにも感じられた。

特に私が舌を巻いたのは、2009年3月に行なわれたブルックナーの「第7交響曲」のレコーディングのリハーサルに立ち会った時である。例えば彼は、第3楽章のトリオの弦楽器の主題の各フレーズを、あたかも歌の詩節のように有機的な関連を持たせるよう綿密に指示し、何度も何度も繰り返

Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

さらなる高みへ　マエストロ・スダーンへの賛辞

させた。その結果、その部分が著しく旋律美の豊かな演奏になり、ブルックナーがいかに「歌う」作曲家だったかという思いがけぬ発見をもたらしたのである。東京響とのこのCDは素晴らしい反響を呼んだものだったが、その理由の一つは、このような新鮮な解釈にもあったのではないか。

スダーンのこの妥協を許さぬ完璧主義が生み出す見事な演奏は、他の作品でも同様であった。ブルックナーの交響曲は彼の傑作の好例だが、例えば「第8番」（2010年11月27日）では、長い旋律線を絡み合わせるというより、むしろ主題を組み合わせ、積み上げて行くといった構築で、そこには異様な気迫と昂揚と凄味があり、第4楽章など、立ち止まることを許さぬ力に追い立てられるような演奏となっていた。この年には内外のオーケストラが「第8番」を競演、その数8種に及ぶという出来事があったのだが、スダーンと東京響のそれは、緊迫感においては随一の演奏であったろう。

「第9番」（2010年7月11日）では物々しい巨大さを求めず、また「第4番」（2013年11月3日）の第3楽章の終結では、一段また一段と最後の豪壮な最強音へ煽って行くという大技を聴かせた。この楽章が終った瞬間、場内から拍手が起こったが、その気持も解るというものである。

ブルックナーも良かったが、音楽監督時代も含めて20年近くにわたったスダーンと東京響の深い結びつきの中で、最高の結実はどれだったかと問われれば、私はあれこれ迷いつつも、やはりシューベルトの交響曲ツィクルス（2008年～）における演奏を挙げたいと思う。あれは、日本のオーケストラが行った一人の作曲家の交響曲連続演奏の中でも、最高級のものに属すると言っていいほどの完璧な演奏であった。特に前期の交響曲――「第1番」（2008年5月17日）はもちろん、「第2番」「第3番」（同11月1日）は、忘れられぬ快演だった。独特の音色を持った鋭角的な響きの管楽器群によるハーモニー群が弦と調和し、えもいわれぬ音となる。これこそがスダーン・サウンドというものだ。彼が首席指揮者だった頃のザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団でさえ、いつも巧く鳴らせるとは限らなかったサウンドである。彼の完璧主義は、こうして東京響に最高の果実をもたらしたのだった。因みに「第2番」は、2014年3月30日、彼の音楽監督在任最後の定期公演で、締めの曲目としても取り上げられていた。それはスダーンの、輝かしい告別の辞だったと言えよう。

いま、80歳に達してスダーンは、その持ち前の完璧主義を、柔軟に、自在に、楽々と発揮しているように見える。かつての寸毫の緩みもない、厳格に引き締まった構築の演奏も、解放感のあるあたたかい音楽に変わってきたように思われる。スダーンの新しいステージが、これから始まるのであろう。



東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。
＊新会員の方です。ありがとうございました（10月15日現在。五十音順）。

ご芳名（敬称略）

法人会員

●プラチナ会員

株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社ドワンゴ
株式会社フェイス

●ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
株式会社エイチ・アイ・エス
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらーくホールディングス
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ
株式会社モリモト

●ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーシンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
ヤマト科学グループホールディングス
税理士法人WATANABE

●シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

●ブロンズ会員

アーティス
ホールディングス株式会社
株式会社ヴァリューズ
カトーレック株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
神宮前耳鼻咽喉科クリニック
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ株式会社
合同会社ハイム
株式会社BDA
富士フイルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社
神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマン
ホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名3社



東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。
＊新会員の方です。ありがとうございました（10月15日現在。五十音順）。

●サークル50

伊藤　晴美
伊藤　美樹
沖田　陽子
鴛海　量明
木暮　紀子
清水　尚彦
山口　積恵
匿名 5 名

●サークル25

荒木　陽子
猪田　隆文
井上　孝昭
大崎　朋子
岡野　一哉
後藤　実
手塚　和彦
戸川　二郎
長瀬　雅則
平山　智史
＊山上　典彦
山本　誠一郎
匿名 2 名

●サークル10

天野　佳和
五十嵐　建平
井澤　菜緒子
石川　晴依世
岩田　新
内山　誠彦
梅沢　麻衣
遠藤　秀和
大城　明幹
大島　肇
太田　純子
大塚　具幸
大類　浩
岡　邦子
尾崎　茂
尾畑　圭一
片山　泰輔
片山　千栄
加藤　聖隆
金山　尚弘
金子　元
金田　好生
木賀　賢市
菊池　光剛
木内　正則·道子
小林　光
古丸　健
近藤　和喜夫
斎藤　秀子
佐々木　真
佐野　利勝
清水　幹雄
臼井　恭一
鈴木　信恵
高澤　美貴子
高田　光官
高津　麻子
高野　幸一
高皇　琢己
高家　正行
田口　之博
竹田　忍
田中　建一
谷川　啓
谷藤　明雄
千葉　清
角田　隆·直子
中澤　守正
中村　豊
永松　清明
成瀬　倉祥
西谷　公男
原田　美保子
枇杷　高志
星　久人
堀江　智巳
増岡　聡一郎
＊水口　敏也
水越　睦美
森　京子
森口　健
森口　優子
森下　国彦
八鍬　昭
山口　重雄
山本　明
吉江　治彦
吉村　美恵子
米岡　修一
匿名 13 名

●フレンズ5

東　恭代
有江　純子
石原　祥子
潮田　伊織
大川　朋彦
大野　紀子
奥秋　和彦
加香　雄一
河野　愛
小林　義彦
塩澤　誠司
高際　比呂志
寺西　基之
中島　信男
早川　利郎
松信　正志
村松　秀幸
山口　聡
吉田　哲四郎
匿名 4 名

●フレンズ3

秋山　真一郎
明田　重樹
荒　洋一
＊荒井　健司
石澤　卓志
井上　聡
岩瀬　正明
大﨑　純
大津　透
大塚　啓司
大埜　展男
大橋　昌資
岡本　直毅
小川　康恭
奥瀬　篤
奥田　桂子
尾島　夕里
小田切　明子
皆瀬　修
加藤　政晴
加藤　由美子
兼子　伸彦
＊川上　忠男
菊池　伸治
木鋪　万裕
北川　洋
久保　光司
久保田　一穂
小泉　博
河野　太
小木曽　孝
古杉　絢
小平　信因
小林　美智子
小山　智代子
佐藤　悦子
佐藤　健司
清水　元
清水　良枝
新保　和浩
杉田　弘也
鈴木　忠明
関根　三善
高坂　麻由子
竹内　あゆみ
田中　美貴子
田山　智広
都築　豊
冨田　博之
富永　直彦
中村　元嗣
中村　幸雄
永井　洋一
西田　悦子
西田　尚弘
西本　研一
根本　暢明
野島　秀太郎
濱田　尚人
林　美奈子
林遵　英正
福田　昭夫
藤田　栄
藤野　盾臣
藤森　朗
松下　一彦
三浦　麻子
三橋　正典
村田　拓郎
森山　健治
諸岡　喧子
安原　秀彰
薮下　真平
山田　修造
山中　喜義
鎗水　みお
横尾　順
横沢　宗寿
吉田　公彦
吉冨　貴紀子
吉原　美紗恵
和田　真理
Max Wong
匿名 30 名

●フレンズ1

■あ
相磯　浩
赤塚　節恵
秋元　淳志
浅里　文男
安達　郁夫
阿部　靖彦
生田　裕一
池田　利昭
石川　由紀
石丸　浩平
磯村　幸一郎
井手　泰宏
伊藤　勉
伊東　雅博
伊藤　宗功
伊藤　力雄
稲垣　貴代
稲葉　順一
井上　聖恵
井上　恵介
井上　康子
猪瀬　正
今井　由紀夫
今井田　邦男
今宮　美知子
今村　知子
岩澤　淳子
岩野　裕一
岩村　亮
岩本　豪
上田　洋子
臼居　正昭
臼田　泉
内海　重男
内山　誠
宇野　正芳
梅里　拓志
梅崎　耕司
梅原　秀元
梅本　千枝子
江藤　祐子
大泉　雄彦
大泉　成実
大川　剛
大島　初彦
大島　康彦
大島　裕美子
大須賀　徳也
＊大塚　秀子
大塚　賀久
大友　英司
大貫　智弘
大貫　由香
大畑　喜信
大堀　慶裕
大森　幸吉
大八木　節子
大和久　京子
岡田　浩一
岡田　正道
岡田　美穂
岡野　明徳
岡本　勝利
小川　幾子
小川　徹
沖　知子
＊萩野　好正
奥秋　和歌子
奥泉　亮子
奥田　由美子
奥貫　壮史

©N.Ikegami

奥村　克彦
小倉　茂
小澤　俊文
小名　雅恵
小野　信也
小野　英樹
小野塚　純二
尾野　美和
■か
海藤　慶子
香甫　大樹
角山　美知子
方波見　和雄
葛城　伸一
加藤　洋子
加藤　里加子
川上　真理
川口　善行
川名　康一
川野　安子
菅野　広和
菅野　雄平
岸本　裕子
北野　雅子
北村　眞
木下　泰子
木下　亮平
木村　好一
木村　強
木村　富士子
清田　一正
倉谷　宏樹
栗原　潔
小糸　健治
好士崎　稔子
国府　里美
国府　保周
小寺　駿乃祐
小西　淳
小沼　敬四郎
小林　恭二
小林　光一
小林　秀夫
小林　秀樹
小林　宏州
小林　浩
近内　光一
近内　友吏子
後藤　敬秋
後藤田　裕二
■さ
齊木　一宏
齊藤　ひろ子
齋藤　博
酒井　典子
坂本　タカ子
前刀　禎明
櫻井　智仁
桜林　哲生
佐々木　通博
佐々木　基
佐藤　香
佐藤　幸子
佐藤　信一郎
佐藤　勝
佐藤　大助
佐藤　孜
佐藤　深雪
佐藤　美和子
佐藤　由紀子
重成　瞳
茂野　俊郎
宍戸　宗太
篠田　一朗
＊篠原　壮介
柴橋　俊也
渋川　朋子
嶋谷　宏明
島　知里
清水　重夫
志村　崇
下田　和代
庄司　一彦
白石　大
新藤　ひろみ
杉山　啓次
杉山　慎二
鈴木　慶子
鈴木　啓介
鈴木　康史
鈴木　孝治
鈴木　隆之
鈴木　月穂
鈴木　智子
鈴木　美和
須田　眞理子
須沼　ミミ
清木　達
清木　穂名美
＊瀬尾　尚史
関　洋
関口　あずみ
■た
高岡　美保
高木　一茂
高木　和敏
高木　敏和
高木　晴彦
高野　洋二
高橋　嗣奈子
高橋　美穂
高橋　有一
高橋　ユリコ
高橋　里奈
高松　則雄
髙村　勝仁
高森　幸男
瀧山　正人
竹内　聖子
竹内　真也
竹内　みお
竹内　竜太
武尾　和彦
竹下　裕行
武田　和大
田代　沙智子
田島　遼太郎
多田　泰三
田中　敬子
田中　淳
＊田中　睦子
田永　恒美
田邊　禎二
田端　鈴恵
田渕　泰弘
玉井　正浩
玉村　雅夫
＊田村　彰
千田　晴久
千葉　絵里
塚田　寛
築館　玲子
辻　直浩
辻内　牧子
坪井　洋一
＊寺島　篤
寺田　治男
遠山　淳夫
登原　明史
鳥居　順子
鳥居　夕紀夫
■な
中沢　忠
中村　紀美子
＊中山　彩
長瀬　利明
永田　郁子
長濱　通子
縄田　淳
西岡　直実
西岡　初美
西川　晶
西中川　淑子
西村　真
西村　陽子
西山　英昭
根本　直之
野口　信弘
野島　紀久
野村　一成
野村　真澄
■は
橋爪　千鶴子
橋本　憲人
長谷川　寿一
長谷川　博
秦　実
＊服部　伊知夫
早川　明男
林　博子
林本　秀範
原　正道
原田　容子
春川　京子
半谷　方枝
坂東　泰子
肥後　恵子
檜谷　亜樹
廣岡　真由美
廣瀬　泰文
廣中　直行
深沢　茂実
藤生　容子
藤原　正之・文子
古市　雄二
古川　郁子
古屋　清敏
文　永清
星　直樹
細川　由利子
細田　洋
本多　真世
■ま
眞木　太郎
＊牧口　光郎
幕田　正司
桝井　明
升元　美和
松浦　和弘
松岡　秀樹
松崎　圭子
松澤　聡
松本　繁
松本　純
水野　弘
水谷　晴彦
三田　純子
峯岸　恭博
宮川　悦子
宮坂　健司
宮崎　哲
宮嶋　信夫
宮寺　昇
宮本　好江
向尾　三男
村上　誠司
村上　泰大
村本　信幸・京子
森　里美
森島　政和
■や
柳沼　美智子
安永　優子
柳本　友幸
山縣　裕児
山岸　勇一郎
山口　学
山崎　由美子
山本　恵子
山本　博
湯川　俊明
横田　初恵
吉居　秀修
＊吉井　秀徳
吉江　健志
吉岡　真紀子
吉田　暢子
吉田　裕
吉富　美紀
吉見　享
吉見　幸子
米田　徹
米田　光
米村　恵子
米谷　由起子
■わ
渡辺　敦郎
渡邉　磨
渡邉　朋子
匿名157名

■栄誉会員
ヨーコ・ナガエ・チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付（敬称略）

竹内　容子
齊藤公治メモリアル基金
岡橋　純男
岡橋　孜

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社

【東京オペラシティシリーズ】
SATO社会保険労務士法人

Together with TSO
For Music Lovers

特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただき、当団主催公演の入場券を5%引き（TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱い分のみ）にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

関根　三善
小倉　茂
東　由美子
森山　雅一郎
大田原　健太郎
匿名 14 名
（敬称略）

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話でお願いいたします。

東京交響楽団サポート会員制度

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングよる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。
そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ち申し上げております。

個人会員

フレンズ1	フレンズ3	フレンズ5
年額1万円～29,999円	年額3万円～49,999円	年額5万円～99,999円

サークル10	サークル25	サークル50
年額10万円～249,999円	年額25万円～499,999円	年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけではなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ	シルバー	ゴールド	ダイヤモンド	プラチナ
年額10万円～	年額30万円～	年額50万円～	年額100万円～	年額1000万円～

会員特典

詳細はHP、又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員 フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会（年3回以上）	○	○	○	○	
リハーサル見学会（年3回以上）	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 *1	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 *2	○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミューザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。
◎個人の場合：「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分*3について、税金（所得税・個人住民税）を控除されます。
また相続税にも控除が適用されます。
◎法人の場合：「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。*3
*3 但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会（ご寄付）いただけます。
http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html

サポート会員へのご入会・お問合せ
公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部
TEL 044-520-1518
E-mail supporters@tokyosymphony.com

楽団員紹介 Meet the Musicians

偶然の出会いから、クラリネット奏者へ

務川 広貴

MUKAWA Hiroki

［クラリネット］2025年11月入団

趣味：アクションゲーム、ピアノ



©N.Ikegami

ピアノと過ごした幼少期

母が自宅でピアノ教室の先生をしていたので、物心ついたころには自然にピアノを弾くような環境でした。幼稚園の頃は音楽教室のグループレッスンに通っていて、小学校に入学してからはピアノの個人レッスンに通うようになりました。今でも趣味としてピアノを弾くこともあります。中学生になるころに、同じくピアノを習う兄の姿をみてなのか、楽器を変えようと思いました。そのこともあってか、小学校6年生の自由研究で"ファゴット"を取り上げていて、のだめカンタービレの黒木君に影響を受けたこともあり、ファゴットかオーボエをやってみたいと思っていました。

思いがけないクラリネットとの出会い

中学校で吹奏楽部に入部したところファゴットもオーボエもなくて、形が似ているリードを使う木管楽器ということで、クラリネットをはじめることになりました。中学校2年生のときに個人レッスンを受けることになり、その先生の紹介でジュニアオーケストラに入ることになりました。そこでオーケストラの楽しさを実感し、どんどんのめりこんでいきました。ちなみに、蟹江さん(チェロ奏者)も在籍していました。

オーケストラへの歩み ーこれまでと、これから

幼少期からなんとなく音楽を仕事にするのだろうなと思っており、クラリネットをはじめた時も漠然とオーケストラの仕事につきたいと考えていました。桐朋学園大学のオーケストラアカデミーに在籍したことをきっかけに、本格的にオーケストラに入ることを目指すようになり、オーディション課題など準備を始めました。

大学に入って関東のオーケストラをたくさん知るうちに、ノット前監督が率いる東京交響楽団はとても魅力的だという話を耳にして、実際に演奏会に足を運びました。挑戦的なプログラムに前向きに取り組むオーケストラというのが当時の印象で、これは入団した今も変わりません。活気にあふれていて、リハーサルは常に明るい雰囲気で、入団する前も後もいい意味で印象が変わりません。ロレンツォ監督は木管楽器に対して、首席奏者だけでなくセクション全体に積極的な音楽を求めていて、それに応えるような音楽づくりをしているのがよさだと感じています。今後は自分からも音楽のアイディアを提示できるような演奏をしていきたいと思っています。



兄とピアノを弾く幼少期の務川さん

インタビュー：事務局

NEWS & TOPICS



退任　2026年10月31日付　相澤政宏 AIZAWA Masahiro［客演首席フルート奏者］

客演首席フルート奏者としての契約満了につき退任いたしました。

正楽団員　2026年11月1日付



知久 翔 CHIKU Kakeru
［首席フルート奏者］

宮城県仙台市出身。パリ国立高等音楽院卒業。第19回びわ湖国際フルートコンクール一般部門第1位等受賞歴多数。兵庫芸術文化センター管弦楽団コアメンバー、山形交響楽団首席フルート奏者を経て、東京交響楽団フルート首席奏者。

2026年11月1日付



津守隆宏 TSUMORI Takahiro
［ホルン奏者］

神奈川県出身、東京音楽大学音楽学部音楽学科卒業。東京文化会館新進音楽家デビューコンサートに出演。ホルンを松崎裕、岡本充代、日高剛、L.M.ストランスキー、E.テルヴィリガーの各氏に師事。シエナ・ウインド・オーケストラ、東京ニューシティ管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団の各楽団員を経て、東京交響楽団楽団員。名古屋音楽大学非常勤講師。

2027/28シーズンラインナップ発表記者会見

10月7日（水）、ミューザ川崎シンフォニーホールにて、2027/28シーズンラインナップ発表記者会見を開催し、音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティが登壇しました。先日発表された任期延長についても触れながら「長い期間をともにすることで、音楽をさらに深く掘り下げ、より一層高いクオリティを目指すことができると思う。これからも挑戦を続けていきます」と抱負を語りました。



佐藤俊介 クリエイティブ・パートナー就任

2027年度より、クリエイティブ・パートナーとして佐藤俊介氏を迎えることとなりました。任期は2027年4月から3年間です。2027/28シーズンにて、就任記念コンサートを開催いたします。

～佐藤俊介クリエイティブ・パートナー就任記念コンサート～
第758回定期演奏会 2028年3/25(土) 18:00 サントリーホール

指揮＆ヴァイオリン：佐藤俊介
フルート：竹山愛（東響首席）

ヴィヴァルディ：フルート協奏曲 ト短調
ハイドン：交響曲 第6番 ニ長調「朝」
ベートーヴェン：交響曲 第6番 ヘ長調「田園」



【佐藤俊介氏コメント】
東京交響楽団のクリエイティブ・パートナーに就任することを、この上ない光栄に思います。これからも音楽を探究する道を歩み続け、今後何年にもわたり、オーケストラの皆さまとともに豊かな音楽の言葉を築いていけることを、心から楽しみにしています。

第3代音楽監督ジョナサン・ノットとのマーラー 9番ライヴ収録CD 好評発売中！



ジョナサン・ノット前音楽監督による任期最後の定期演奏会ライヴ収録CDが好評発売中です。

マーラー：交響曲 第9番
録音：2025年11月23日 ミューザ川崎シンフォニーホール
税抜価格：3,500円

NEXT PROGRAM

12/4 FRI 東京オペラシティシリーズ 第155回
19:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮：沼尻竜典
ソプラノ：船越亜弥　メゾソプラノ：山際きみ佳
テノール：澤武紀行　バリトン：池内響
合唱：東響コーラス　合唱指揮：根本卓也



武満徹：混声合唱のための「うた」から"翼"
武満徹（沼尻竜典編）：混声合唱のための「MI・YO・TA」
武満徹：混声合唱のための「うた」から"小さな空"
ベートーヴェン：交響曲 第9番「合唱付」

S¥8,500　A¥6,500　B¥4,500　C¥3,500

12/12 SAT 第748回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

12/13 SUN 川崎定期演奏会第108回
14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮：下野竜也　チェロ：宮田大



三善晃：祝典序曲
芥川也寸志：チェロとオーケストラのための
コンチェルト・オスティナート
ブルックナー：交響曲 第0番 ニ短調

[12/12]S¥7,500　A¥6,500　B¥5,500　C¥4,500　P¥3,000
[12/13]S¥7,500　A¥6,500　B¥4,500　C¥3,500　P¥3,000

12/28 MON 「第九」2026
18:30 サントリーホール

12/29 TUE 「第九」2026
14:00 サントリーホール

指揮：ロレンツォ・ヴィオッティ
ソプラノ：三宅理恵　メゾソプラノ：小泉詠子
テノール：村上公太　バリトン：甲斐栄次郎
合唱：東響コーラス　合唱指揮：根本卓也



©Tomoko Hidaki

ベートーヴェン：交響曲 第9番「合唱付」

SSシングル¥15,000　SSペア¥26,000　S¥12,000　A¥9,000　B¥6,000　C¥4,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター　044-520-1511（平日10:00 ～ 18:00 ／土日祝休）



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, Music Director
80 ANNIVERSARY
東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト https://tokyosymphony.jp

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R. シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

2026年4月よりロレンツォ・ヴィオッティが第4代音楽監督に就任。

Founded in 1946 as the Toho Symphony Orchestra, the ensemble adopted its current name, the Tokyo Symphony Orchestra, in 1951. It presents subscription concerts at Suntory Hall, Muza Kawasaki Symphony Hall, and Tokyo Opera City Concert Hall, and has received nearly all major music awards in Japan, including the Minister of Education Award. In addition to serving as the resident orchestra of the New National Theatre, Tokyo, the orchestra is actively engaged in collaborations with local governments such as Kawasaki City and Niigata City, as well as in a wide range of community and educational programs, including the "Kodomo Subscription Concerts" and Kids Programme ～Orchestra Experience from the age of "0 years". Its international activities, including performances at the Musikverein in Vienna and the "Asia Project," have also attracted considerable attention.

The orchestra has further distinguished itself as a leader in digital innovation within the classical music world, being the first Japanese orchestra to launch a music and video streaming subscription service, as well as introducing VR orchestra experiences and electronic ticketing. In 2020, a live-streamed concert without an audience on the Nico Nico Live platform drew approximately 200,000 viewers, and in December 2022, its performance of Beethoven's Symphony No. 9—filmed with a record 45 cameras—garnered widespread attention.

In recent years, the orchestra has attracted significant attention as one of Japan's leading orchestras. In Ongaku no Tomo magazine's "Top 10 Concerts," Salome (2022) was ranked second, followed by Elektra (2023), which was ranked first. The third and final of the project, Der Rosenkavalier (December 2024), also received outstanding critical acclaim.

Lorenzo Viotti becomes 4th Music Director in April 2026.

マエストロ・シート
【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】

NICO NICO TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団

音楽・動画配信サイト「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」
1か月550円(税込)

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE
Symphony

Symphony 2026年(令和8年)11月号[非売品]
発行 公益財団法人東京交響楽団
〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス>
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミューザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518
Art Direction & Design：Be.To Bears 印刷：NHKビジネスクリエイト

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮した
ユニバーサル・デザインフォントを使用しております。